

要約

玉ねぎの作付面積の拡大を図るための機械化一貫体系確立に向けた検証を行い、一定の目途がついた。また、シンポジウムや営農懇談会でのPRなど、普及拡大のための活動にも着手した。

担当者：安曇野市農林部農政課生産振興担当 齊藤

1. 課題設定の背景と目的

玉ねぎは単価が高く、機械化が可能であることから水田転作作物として注目されている。一方、安曇野は古くから玉ねぎの産地であったが、近年は作付面積が減少している。本事業では作付面積の拡大を目的とし、機械化一貫体系の確立を目指し、栽培技術、作業効率及び経済性を検証した。

2. 結果の概要及び考察

(1) 主な活動

- ・機械作業実演会
定植機、堀取り機及びピッカーの作業実演会を開催した。
- ・安曇野タマネギ生産振興シンポジウム
市農業再生協議会の取組と、機械化体系の先進地である富山県のJAとなみ野の取組が紹介された。また、パネルディスカッションでは、今後の安曇野の玉ねぎ振興について意見を交わした。シンポジウムを通し、玉ねぎを収穫してから流通させるまでの体系と設備の整備が今後の課題であると共通認識を持つことができた。
- ・JAとなみ野への視察
先進地である富山県に行き、育苗及び乾燥調製出荷施設の視察を行った。
- ・営農懇談会でのPR
JAあづみの機械作業受託や、来年度市の事業として実施する機械化支援事業を紹介した。

(2) 各種検証結果

表-1 10aあたりの作業効率

| 機械作業 | 作業時間 |
|-----------|-------|
| 定植 | 1.5時間 |
| 収穫（堀取機） | 4.3時間 |
| 収穫（ピッカー※） | 1.5時間 |

※掘り上げ後、コンテナに収納する機械

表-2 10aあたりの経済性

| 区分 | 項目 | 金額（円） |
|------|---------------------|---------|
| 経営費 | 資材費等 | 198,198 |
| | 償却費 | 48,576 |
| | 流通経費 | 97,470 |
| | 合計 | 344,244 |
| 収益 | 主産物収益 ^{※1} | 405,000 |
| | 助成金 ^{※2} | 50,000 |
| | 粗収益 | 455,000 |
| 農業所得 | | 110,756 |

※1 平均収量4,500kg、平均単価90円/kgとして算出

※2 水田活用直接支払交付金(国)：35,000円
安曇野市農業振興作物等推進助成(市)：15,000円

表-3 越冬率及び収量・品質調査結果

| | 越冬率 | 収量・品質 |
|----|---|--|
| 結果 | ・マルチ区で越冬率高かった。 ・ソバ後で越冬率低かった。 | ・畑作後の方が収量・品質高い傾向だった。 ・水田後で著しく低かった。 |
| 考察 | 畑作後は定植直後の乾燥により、根鉢の糊が溶けなかった可能性が考えられる。 | 水田後は生育期と玉伸期の湿害とpH低下の可能性が考えられる。 |
| 対策 | 畑作後では定植後すぐのかん水を行う。 定植時期を早め、年内の生育を確保する。 | 水田後は適切な土壌改良と排水対策を行う。 水田→麦→玉ねぎ→…といった輪作体系を組む。 |

3. 成果の活用と今後の方向性

取組から4年目にして機械化体系の確立に目途がついた。今後は普及活動を行うとともに、表-3に示した対策について検証を行う。



平成 27 年 6 月 18 日 収穫作業実演会（掘取機）



平成 27 年 6 月 18 日 収穫作業実演会（ピッカー）



平成 27 年 8 月 7 日 シンポジウム



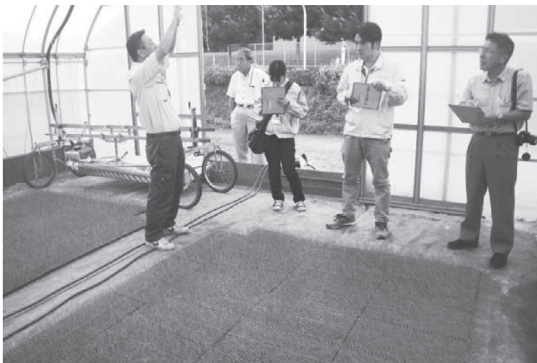
平成 27 年 8 月 7 日 シンポジウム



平成 27 年 8 月 7 日 シンポジウム



平成 27 年 8 月 7 日 シンポジウム



平成 27 年 9 月 11 日 視察（育苗施設）



平成 27 年 9 月 11 日 視察（乾燥施設）